

財団法人多久市体育協会 感謝状・体育功労者表彰

平成23年度の体育功労者表彰式が10月5日、県民体育大会多久市選手団結団式の折行われました。



受賞者は次の方々です。(敬称略)

体育協会感謝状

吉浦啓一郎 (多久市体育協会前副会長)

体育協会体育功労者表彰

西山 和秀 (グラウンドゴルフ協会)
石丸 徳司 (レクリエーション協会)
東郷 義太 (ゲートボール協会)
多久市ボウリング協会 (多久市体育協会)
中尾 睦夫 (多久市体育協会)
黒岩はるな (バドミントン協会)
荒嶋 真子 (バドミントン協会)
荒谷 亮 (バドミントン協会)
江里口梨奈 (バドミントン協会)
田中 果帆 (バドミントン協会)

昨年の県民体育大会ボウリング競技の団体個人で優勝したボウリング関係者や小学生バドミントン大会で活躍した子どもたち、永年協会の運営に尽力された方に贈られました。



初めての議会報告会

市民の声を聞き、市政へ反映

▲10月5日の多久公民館での議会報告会

多久市議会(山本茂雄議長)は、今年3月議会で制定した議会基本条例に基づく「議会報告会」を10月3日から5日まで各町公民館および納所会館で開きました。初めての議会報告会は、市議会議員16人が2班に分かれ、3日間・6地区で行い、多数の参加がありました。

多久公民館での報告会は、住民約35人が参加し、角田副議長ら議員7人が出席。市議会の運営、定例会の概要、平成23年度予算等を説明しました。参加者からは、「小中一貫校は、前向きと聞いたがどのような状況か」「駅前区画整理のまちづくりはどう思うか」「市税や給食費の未納金はどうなっているか」など予定時間を過ぎても、相次ぐ質疑がありました。

議会報告会は年一回以上開催すると議会基本条例で定められています。市民の声を聞き市政へ反映するため、今後も開かれる予定です。

市長コラム

温|故|創|新|

Message for citizen

世界を変えた三つのリンゴ

市長 横尾俊彦

歴史に大きな影響を与えた3つのリンゴがあるという。一つ目は旧約聖書のアダム&イブの話に出てくるエデンの園のリンゴ。二つ目は万有引力法則のヒントとなり、その後の科学に影響を与えたニュートンのリンゴ。そして三つ目はステイプ・ジョブズが創り、それ以降のコンピュータに影響を与え、私たちの生活に変革をもたらしたアップル社。なかなか云い得て妙である。

アップル社はガレージで友人と創業され、次々に創造を続けた。人の自然な頭脳反応を想定した機能展開、デザイン性や変革も世界に響いた。

そのジョブズ氏が56歳で逝去した。脾臓癌らしい。手術で乗り越えたが、遂には勝てなかった。病状と余命を伝えられ、人生の有限性をジョブズ氏は悟る。その思いを踏まえ、6年前に学生に語った有名な演説がある。彼は17歳の時に「毎日を人生最後の日だと思って生きれば、いつか必ずひとかどの人物になる」という言葉に出会い、それ以来、毎朝「今日が人生最後の日だとしたら、今日これからやろうとしていることを本当にやるだろうか」と自問し、自己を高め続けたという。そして若者に語る。「ハングリーであれ、愚直であれ」と。その精神は未来を拓く源泉だ。

享年56歳は若い。天才と称された巨星が去った。同じ病に苦闘し、昇天した本誌担当の花島さんが重なる。両者には、人々の笑顔を生み出すことを一義に置いた、こだわりのものづくりがある。キープ・スマイリング。その心で進みたい。